

～次世代米国代表企業の
2014年1-3月期決算～

- 皆様におかれましては平素より「次世代米国代表株ファンド(愛称:メジャー・リーダー)」をご愛顧いただきまして、誠にありがとうございます。
- さて、米国主要企業の2014年1-3月期決算が出揃ってまいりましたので、ファンドに組み入れている次世代米国代表企業の決算状況についてお伝えしてまいります。

■ 当ファンドの構成銘柄について

4月末現在の当ファンドの構成銘柄(次世代米国代表企業)30銘柄と米国の代表的な株価指数であるダウ工業株30種30銘柄との関係を整理すると、以下の3つに分類できます。

A 独自銘柄

(当ファンド保有&ダウ工業株30種非採用銘柄)

1	グーグル
2	アマゾン・ドット・コム
3	ハリバートン
4	CVSケアマーク
5	アップル
6	スターバックス
7	ダナハー
8	アムジェン
9	クアルコム
10	メットライフ
11	フェイスブック
12	セルジーン
13	バイオジェン・アイデック

B 共通銘柄

(当ファンド保有&ダウ工業株30種採用銘柄)

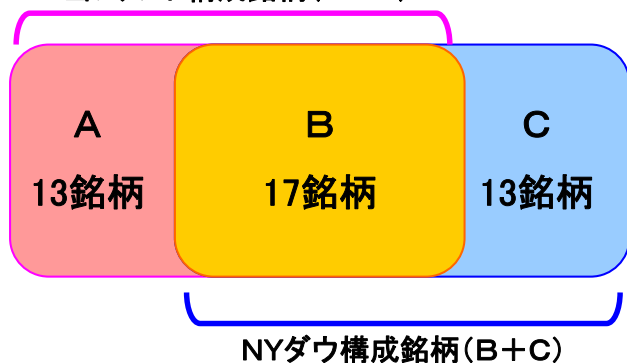
1	ボーイング	2	AT&T
3	ゼネラル・エレクトリック	4	シェブロン
5	3M	6	ウォルト・ディズニー
7	ナイキ	8	Visa
9	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー		
10	ベライゾン・コミュニケーションズ		
11	アメリカン・エキスプレス		
12	イー・アイ・デュポン・ドウ・ヌムール		
13	ザ コカ・コーラカンパニー		
14	ゴールドマン・サックス・グループ		
15	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー		
16	ユナイテッド・テクノロジーズ		
17	ユナイテッドヘルス・グループ		

C 非保有銘柄

(当ファンド非保有&ダウ工業株30種採用銘柄)

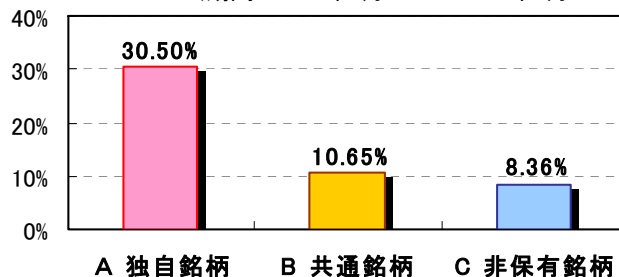
1	キャタピラー
2	シスコシステムズ
3	エクソンモービル
4	ホーム・デポ
5	インテル
6	マクドナルド
7	メルク
8	マイクロソフト
9	トラベラーズ・カンパニーズ
10	ウォルマート・ストアーズ
11	IBM
12	ファイザー
13	ジョンソン・エンド・ジョンソン

当ファンド構成銘柄(A+B)



上記銘柄群の平均騰落率(設定来)

(期間:2013年5月28日～2014年4月30日)



(出所)ブルームバーグ社のデータより三菱UFJ投信作成

・当ファンド構成銘柄は、2014年4月30日時点で当ファンドが組み入れている銘柄であり、保有期間等を考慮したものではありません。

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

■上記は、過去の実績・状況です。将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

次世代米国代表株ファンド
(愛称:メジャー・リーダー)

次世代米国代表企業の決算状況

■ **米国企業の決算は好調。業績相場移行への期待が高まる**

2014年5月15日現在、S&P500指数採用企業の2014年1-3月決算は、前年同期比で6.4%の増益となっています。2014年1月、2月の悪天候の影響などから、事前には業績への慎重な見方も多く、決算発表が本格的に始まった2014年4月10日時点では0.4%の減益が予想されていました。しかしながら、実際には決算内容は好調なものが目立ち、上方修正が続き、改めてファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)の良さが確認されています。景気回復を受け、拡大局面入りした業績を背景に、業績主導による上昇相場入りがいよいよ鮮明となると予想されます。

■ **共通銘柄:ボーイング、ユナイテッド・テクノロジーズ等、老舗企業の強固な事業基盤を再確認**

米国景気回復、欧州景気の底打ちを受け、一般資本財、航空機、油田機器等への受注が強含んでいます。この環境下で強みを発揮しているのが、長年培った技術を武器に売上を伸ばしているボーイング、ユナイテッド・テクノロジーズ、ゼネラル・エレクトリック等の企業です。米国というと、インターネット、バイオ等の企業に注目が集まりがちですが、景気回復局面におけるこれら企業の業績拡大能力には目が離せないものがあります。

■ **独自銘柄:アップル、ハリバートン、フェイスブックは、事前予想を上回る決算を発表**

アップルの決算については、一部では懸念する向きもありましたが、実際の決算は「iPhone」の好調な出荷台数を背景に予想を上回る好決算となりました。ハリバートンにつきましても、シェールガス向けを中心に北米事業が回復傾向にあります。また、スマートフォン、タブレットPC等のモバイル端末普及の恩恵を受ける企業としてフェイスブックの収益が着実に拡大しています。

・当ファンド構成銘柄は、2014年4月30日時点で当ファンドが組み入れている銘柄であり、保有期間等を考慮したものではありません。

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

■ 本見通し分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。



三菱UFJ投信

次世代米国代表株ファンド
(愛称:メジャー・リーダー)

※以下は当ファンド構成銘柄の中から、2014年4月の月間騰落率における上位2銘柄についてご紹介するものです。

次世代米国代表企業① アップル 業種:情報技術

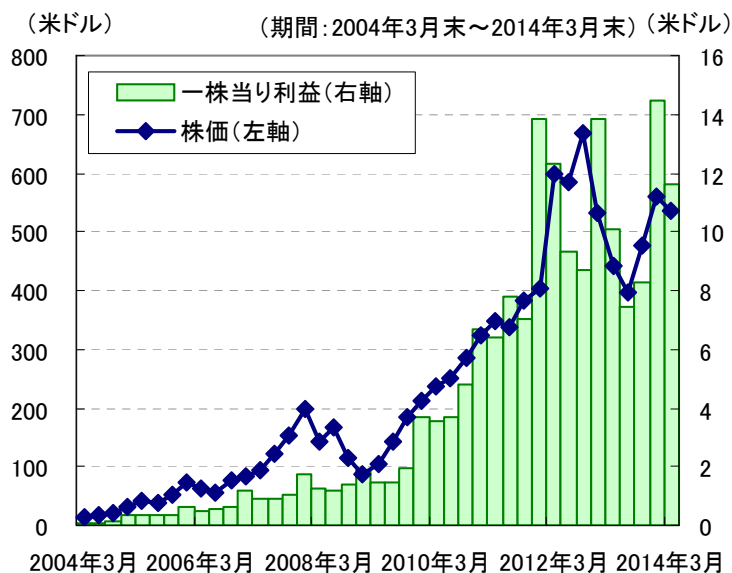
○ 売上高 : 456.5億米ドル
(事前予想 435.3億米ドル)

○ 一株当り利益 : 11.62米ドル
(事前予想 10.17米ドル)

- ① 売上、利益とも事前予想を大幅に上回りました。
- ② 「iPhone」の出荷台数が市場予想を大幅に上回り、改めて同社のブランド力を印象づける決算となりました。また、2014年から中国の携帯電話サービス最大手のチャイナ・モバイルが「iPhone」の取り扱いを始めたことも出荷台数が伸びた一因となっています。
- ③ 2014年1-3月期決算において、自社株買いや増配、株式分割を発表しました。

・売上高、一株当り利益は2014年1-3月期の数値です。
・事前予想はブルームバーグ社が公表している数値を掲載しています。

株価と一株当り利益の推移(四半期)



(出所)ブルームバーグ社のデータより三菱UFJ投信作成

次世代米国代表企業② ハリバートン 業種:エネルギー

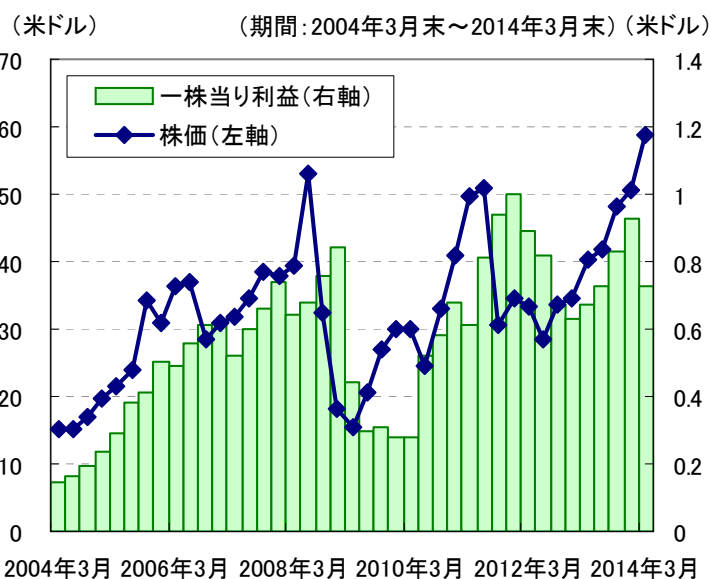
○ 売上高 : 73.5億米ドル
(事前予想 72.4億米ドル)

○ 一株当り利益 : 0.73米ドル
(事前予想 0.71米ドル)

- ① 地域別では、ラテンアメリカの売上が事前予想を下回ったものの、各地域とも好調な売上となりました。
- ② 北米において、2014年1月-3月期はエネルギー価格の低下や悪天候の影響がありましたが、シェールガス向け事業を中心に、同社は2014年後半の業況回復と利益率の改善を見込んでいます。
- ③ また、足下では同社の予想以上に需要が好転しているとの発表がありました。

・売上高、一株当り利益は2014年1-3月期の数値です。
・事前予想はブルームバーグ社が公表している数値を掲載しています。

株価と一株当り利益の推移(四半期)



(出所)ブルームバーグ社のデータより三菱UFJ投信作成

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

■ 上記は、過去の実績・状況です。本見通ししないし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。

次世代米国代表企業一覧① (2014年1-3月期決算発表企業)

* 売上高は億米ドル単位、EPS(一株当り利益)は米ドル単位。(予想)はブルームバーグ社の事前予想。

	企業	収益	内容
一般消費財・サービス	アマゾン・ドット・コム	売上:197.4(予想:194.3) EPS:0.68(予想:0.77)	売上は事前予想を上回った。引き続き北米では高い成長を遂げており、海外も二桁の成長となった。前半期に引き続き配送倉庫の増設、受注・発注・入金などの管理運営業務など大型の設備投資が継続し、利益は事前予想を下回ったが、更なる成長への布石を打っているものと評価する。
	ウォルト・ディズニー	売上:116.5(予想:112.3) EPS:1.11(予想:0.95)	売上、EPSとも事前予想を上回る決算内容。テーマパーク事業やスポーツ専門テレビ局の「ESPN」は高い成長を維持。また、映画「アナと雪の女王(Frozen)」の興行収入やDVD、その他関連グッズも売上げを押し上げた。長期的に映画「スターウォーズ」や「上海ディズニーリゾート」開園に期待。
	スターバックス	売上:38.7(予想:39.5) EPS:0.56(予想:0.56)	米国、欧州・中東・アフリカ、中国・アジア太平洋地域とも既存店売上げは好調。通期の利益について会社側は上方修正を発表した。積極的な中国での出店やクロワッサン、エッグサンドなどコーヒー以外の売上げ増加、プリペイドカードシステムの導入も顧客に好評となり高い成長力は維持。
エネルギー	ハリバートン	売上:73.5(予想:72.4) EPS:0.73(予想:0.71)	地域別では、ラテンアメリカの売上げが事前予想を下回った以外は、各地域とも好調な売上げとなった。北米に関しても、1-3月四半期は価格低下や悪天候の影響があったものの、シェールガス向けを中心に年後半の業績の回復と利益率の改善を予想している。予想以上に足下の需給が回復していると、会社側のコメントがあった。
	シェブロン	売上:490.3(予想:530.1) EPS:2.58(予想:2.52)	売上げが事前予想を下回った。エネルギー価格の下落が響いたほか、悪天候で石油と天然ガスの生産に一部混乱が生じたことが影響した。また為替変動もマイナス要因となった。
金融	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	売上:238.6(予想:244.9) EPS:1.28(予想:1.44)	事前予想を下回る決算内容となった。消費者・地域銀行部門はモーゲージ関連収益の低迷、法人・投資銀行部門は債券トレーディング収益の低下がマイナスに影響した。
	アメリカン・エクスプレス	売上:82.0(予想:83.5) EPS:1.33(予想:1.30)	売上は事前予想に対し未達も、EPSは上回った。加盟店手数料を中心に収益が順調に伸びると同時に経費抑制もプラスに寄与した。クレジットカードの利用金額はアジアが高水準の伸びを維持、米国はやや鈍化したものの冬の悪天候によるものであり、今後の回復に期待できる。
	ゴールドマン・サックス・グループ	売上:93.3(予想:86.6) EPS:4.02(予想:3.49)	助言業務は英通信大手ボーダフォンによる米国合弁事業ベライゾン・ワイヤレスの株式売却などの大型案件が牽引役となり好調に推移したほか、株式引受業務も増収を確保した。一方で債券や株式のトレーディング業務が苦戦し、全体では減収となった。
	メットライフ	売上:171.2(予想:175.4) EPS:1.37(予想:1.40)	事前予想を下回る内容となった。米州地域では買収したラテンアメリカ事業などが好調で営業増益を確保する一方、アジアや欧州が為替の影響から減益となった。資本規制に関する不透明感が残るなかでも増配を表明するなど、株主還元には前向きなスタンス。
資本財・サービス	ダナハー	売上:46.6(予想:46.8) EPS:0.81(予想:0.80)	売上は事前予想をやや下回る決算内容。前半期に引き続き、収益性の高い「医療機器部門」の診断・検査機器の好調な販売から利益は事前予想を上回った。また、決算発表時に社長の交代を発表。
	ゼネラル・エレクトリック	売上:341.8(予想:344.3) EPS:0.33(予想:0.32)	売上は航空機のジェットエンジンや油田機器を製造・販売する産業向け部門が牽引。四半期の受注残も高水準。また、産業向け部門の生産性の向上や収益性の高い油田機器の売り上げ増加から収益性も改善。利益は事前予想を上回った。
	ユナイテッド・テクノロジーズ	売上:147.5(予想:147.2) EPS:1.32(予想:1.27)	売上げ、利益とも市場予想を上回った。ほぼ全部門での業績が好調で通期の見通しも上方修正。売上げは、民間向け航空機用のスペアパーツ出荷増や新興国を中心とした旺盛な需要からオーティス(エレベータ部門)が大きく寄与。受注残も好調。
	ボーイング	売上:204.7(予想:202.0) EPS:1.76(予想:1.54)	売上げ、利益とも事前予想を大幅に上回った。軍事・宇宙部門では各国の緊縮財政から前年同期比マイナスとなるが、「787」を中心に民間航空向け引渡し機数は増加、前年同期比+18%となった。引き続き新興国の航空会社を中心に引渡し機数は増加する見込み。
	3M	売上:78.3(予想:79.6) EPS:1.79(予想:1.80)	売上げ、利益とも事前予想に対し未達。米国、欧州では増収となったが、引き続きアジア太平洋、中南米での工業品を中心とした需要減退により減収となった。一方、利益は収益性の高い製品の売上げ不振から事前予想を下回った。

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

・上記は2014年4月30日現在でファンドに組み入れられている米国次世代代表企業のうち、米国時間2014年4月30日までに2014年1-3月期の決算発表を行った銘柄について掲載しています。なお、コメントは作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

■上記は、過去の実績・状況です。本見通ししないし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

次世代米国代表企業一覧② (2014年1-3月期決算発表企業)

*売上高は億ドル単位、EPS(一株当たり利益)は米ドル単位。(予想)はブルームバーグ社の事前予想。

	企業	収益	内容
情報技術	アップル	売上: 456.5 (予想: 435.3) EPS: 11.62 (予想: 10.17)	売上、EPSともに市場予想を上回った。iPhone出荷台数が市場予想を大幅に上回り、改めて同社製品のブランド力を印象付けた。中国の携帯電話サービス最大手、チャイナ・モバイルが今年よりiPhoneの取り扱いを始めたことも出荷台数が伸びた一因となった。同時に、自社株買い、株式分割、増配を発表した。
	フェイスブック	売上: 25.0 (予想: 23.6) EPS: 0.34 (予想: 0.24)	モバイルへの転換が成功し、事業が成長軌道に乗ったことを示す決算内容となった。2年前にはほぼゼロに近かったモバイル広告が全広告収入に占める割合が、約6割にまで達している。新たなモバイル広告ネットワークのテストや、スマートフォン向けメッセージアプリ提供のワッツアップ社を買収するなど、一層の利益拡大の取り組みにも積極的。
	クアルコム	売上: 63.7 (予想: 64.9) EPS: 1.31 (予想: 1.22)	EPSは市場予想を上回ったものの、売上は若干市場予想未達となった。2014年4-6月四半期の収益見直しも市場予想をやや下回るものとなった。顧客が中国でより高速なLTE通信網の導入を前に旧機種種の在庫を削減したことが、売上予想未達の一因。一方で会社側は年後半にかけての回復について自信を示した。LTE規格のスマートフォンの立ち上がりに連れて同社の売上は強含むと、会社側は予想。
	Visa	売上: 31.6 (予想: 31.9) EPS: 2.20 (予想: 2.18)	EPSが事前予想を若干上回った。世界的に現金から電子決済へのシフトが進む中、決済ネットワークを利用した消費者の支出が増えている。同社は米国外の事業拡大をめざしているが、収入の半分以上を稼ぎ出す米国での消費者支出の拡大が利益を押し上げている。
	グーグル	売上: 121.9 (予想: 122.5) EPS: 6.27 (予想: 6.44)	広告一件当りの平均単価は対前年比で9%低下したものの、広告の総数は26%増加した。背景として顧客がデスクトップやタブレットからスマートフォンに着実に移行しているという流れがあり、同社のモバイル化戦略が順調に進捗していることを示している。新規事業への投資、顧客サービス拡充の必要性から支出は足下増加傾向にある。
生活必需品	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	売上: 205.6 (予想: 206.7) EPS: 1.04 (予想: 1.02)	スキンケアを中心としたビューティ部門の不振から売上げは市場予想を下回った。一方で、お風呂洗浄剤、ルームクリーニングなどの住宅関連や幼児向け紙おむつ(パンパース)の販売がアジアなどの新興国を中心に好調。利益は不採算商品からの撤退など合理化策から市場予想を上回り、引き続き収益性の向上が見込まれる。
	CVSケアマーク	売上: 326.9 (予想: 323.1) EPS: 1.02 (予想: 1.04)	売上げは事前予想を上回る決算内容。ジェネリック薬品を中心に売上げが増加したことなどから薬剤給付管理事業が堅調となった。悪天候と税率の変更から利益は事前予想を下回ったが、新規契約を想定以上に獲得していることから将来の高い成長率が可能となっている。
	ザ コカ・コーラカンパニー	売上: 105.8 (予想: 105.3) EPS: 0.44 (予想: 0.44)	売上げは事前予想をやや上回る内容。今年のイースター休日が4月にずれ込んだことや米国での悪天候の影響にもかかわらずアジアやアフリカが好調だったことから全世界の販売量は2%増加。また、不振な炭酸飲料を補う形で清涼飲料水等それ以外の飲料が好調となり、販売単価も事前予想を上回ったことも好感できる。
素材	デュポン	売上: 101.3 (予想: 104.5) EPS: 1.58 (予想: 1.59)	防弾ベストなどの素材部門の不振や米国での悪天候から農業関連事業が伸び悩み、売上げ、利益とも市場予想を下回った。ただし、農家の作付けが次の四半期にずれ込むことが予想され、中期的な成長力は変わらないものと考えられる。
電気通信・サービス	ベライゾン・コミュニケーションズ	売上: 308.2 (予想: 306.8) EPS: 0.91 (予想: 0.87)	事前予想を上回る決算であった。携帯電話事業は競争環境が激化するなかでも売上を伸ばすことができた。固定通信事業では光ファイバー回線をベースとするインターネットやビデオなどのサービス「FiOS」が順調に拡大している。
	AT&T	売上: 324.8 (予想: 324.7) EPS: 0.71 (予想: 0.70)	事前予想を小幅に上回る決算となった。携帯電話端末に対する補助金を同社が負担しないかわりに毎月の料金を割り引く「ネクスト」という新たなプランを選択する顧客が増えたことが、利益を押し上げる要因となった。
ヘルスケア	ユナイテッドヘルス・グループ	売上: 317.1 (予想: 318.9) EPS: 1.10 (予想: 1.09)	売上げは、やや市場予想を下回ったもののEPSは市場予想をやや上回った。政府の医療保険制度見直し(補助金の削減)の影響を引き続き受けている。
	バイオジェン・アイデック	売上: 21.3 (予想: 20.0) EPS: 2.47 (予想: 2.56)	「タイサブリン」など一部の既存薬の売上が事前予想に対して未達となる一方で、大型新薬として期待される「テクフィデラ」は予想以上の売上を示した。神経系の疾病における同社のフランチャイズの強さが改めて確認された決算内容となった。
	アムジェン	売上: 45.2 (予想: 47.5) EPS: 1.87 (予想: 1.94)	売上、EPSともに事前予想を下回る決算内容。リウマチ治療薬「エンブレル」の需要が予想を下回ったほか、ジェネリック薬との競合激化も売上未達の要因となった。新薬については、コレステロール関連の治療薬が臨床試験にて成功を収める一方で、多発性骨髄腫の治療薬の売上の伸びが鈍いなど、まちまちの内容。
	セルジーン	売上: 17.3 (予想: 17.7) EPS: 1.67 (予想: 1.65)	売上は事前予想に対して若干未達となったものの、同社の主力薬である「レプリミッド」は順調に売上を伸ばしている。臨床試験段階にある新薬開発の進捗も確認された。

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

・上記は2014年4月30日現在でファンドに組み入れられている米国次世代代表企業のうち、米国時間2014年4月30日までに2014年1-3月期の決算発表を行った銘柄について掲載しています。なお、コメントは作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

■上記は、過去の実績・状況です。本見通ししないし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

次世代米国代表株ファンド(愛称:メジャー・リーダー)

追加型投信/海外/株式

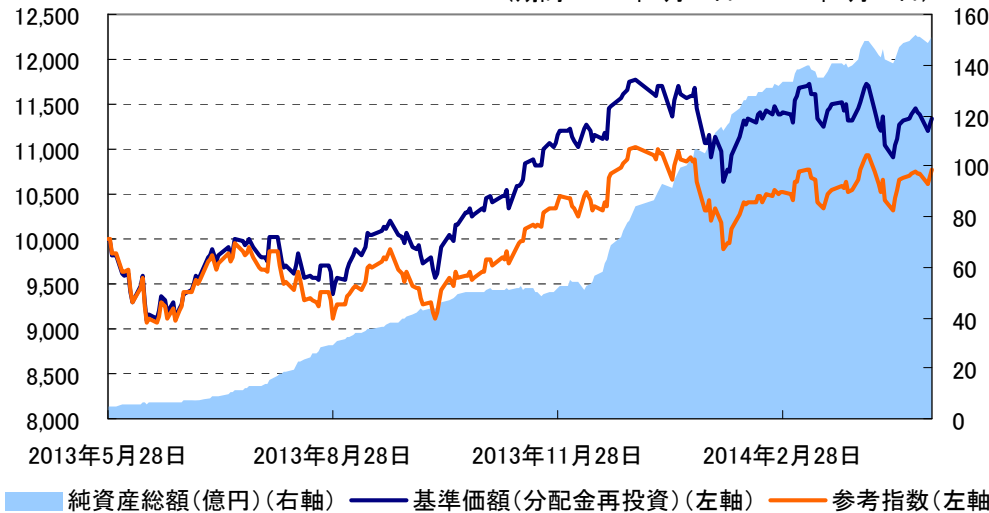
ファンドの特色

- 1 米国の株式が実質的な主要投資対象です。
- 2 主として米国において取引されている次世代の米国経済の主役となり得ると委託会社が判断した企業の株式に投資を行います。
- 3 外貨建て資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- 4 年4回の決算時(3・6・9・12月の各7日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。



基準価額(分配金再投資)の推移

(期間:2013年5月28日~2014年4月30日)



参考指数はダウ・ジョーンズ 工業株価平均(円換算ベース)です。ダウ・ジョーンズ工業株価平均(ダウ工業株30種)とは、ダウ・ジョーンズが米国を代表する30銘柄を選出し指数化したものです。日本では、「ダウ平均」、「NY(ニューヨーク)ダウ」、「ダウ工業株30種」などと呼ばれています。当ファンドは、委託会社等の責任のもとで運用されるものであり、ダウ・ジョーンズは、その運用成果および当ファンドの取引に関して、一切の責任を負いません。

■ 基準価額(分配金再投資)は設定日、参考指数は設定日翌営業日を10,000として指数化しています。■ 基準価額(分配金再投資)は、信託報酬控除後の値です。■ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。■ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。■ 将来の分配金のお支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。

投資リスク

主な投資リスクとして、組入株式の価格変動リスクや為替変動リスク、信用リスク、流動性リスク等があります。

- 価格変動リスク** 企業業績や市場・経済の状況等を反映して組入株式の価格が下落することがあります。また、原則として為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を大きく受けます。
- 信用リスク** 組入株式の発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により、組入株式の価格が下落することがあります。
- 流動性リスク** 市場に十分な需要や供給がない場合等に、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

したがって、投資者のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者の皆様に帰属します。投資信託は預貯金と異なります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

【当資料のご利用にあたっての注意事項等】

- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。／販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金に加入していません。／投資信託は、販売会社が申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。／投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡りする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的として三菱UFJ投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、勧誘を目的に作成したものではありません。／当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。／当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。／当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

お客さまにご負担いただく費用

購入時	購入時手数料	購入価額× 3.24% (税抜3%)を上限として販売会社が定める利率
換金時	信託財産留保額	ありません。
保有期間中	運用管理費用(信託報酬)	純資産総額× 年1.566% (税抜年1.45%)
	その他の費用・手数料	売買委託手数料等、監査費用、外国での資産の保管等に要する費用等を信託財産からご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

・お客さまにご負担いただく手数料等の合計額は、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご購入の際には、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

委託会社(ファンドの運用の指図等) 三菱UFJ投信株式会社
 受託会社(ファンドの財産の保管・管理等) 三菱UFJ信託銀行株式会社
 販売会社(購入・換金の取扱い等) 後記の各照会先でご確認いただけます。

設定・運用 三菱UFJ投信株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
 加入協会 一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

販売会社情報一覧表

ファンド名称: 次世代米国代表株ファンド

商号	登録番号等	加入協会
株式会社 あおぞら銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第8号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
株式会社 青森銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第1号	日本証券業協会
株式会社 阿波銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金)第1号	日本証券業協会
株式会社 池田泉州銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第6号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
株式会社 但馬銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第14号	日本証券業協会
株式会社 中京銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第17号	日本証券業協会
株式会社 中国銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第2号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
株式会社 東京都民銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第37号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
株式会社 南都銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第15号	日本証券業協会
株式会社 八十二銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第49号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第33号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
株式会社 宮崎銀行	登録金融機関 九州財務局長(登金)第5号	日本証券業協会
株式会社 山形銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第12号	日本証券業協会
株式会社 山梨中央銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第41号	日本証券業協会